



さ SA く KU ら RA



July, 2019

発行/ボーイスカウト世田谷第5団広報部

ビーバー隊

6月2日 新聞紙 ハンバーガー作り

ビーバー隊隊長 草嶋隆行

意外とリアルに出来る新聞紙ハンバーガーです。今年はずっとなので標準型に飽き足らず、佐世保バーガーの写真を見せてゴージャスな仕上がりになるように促してみました。すると、ハンバーグ3枚などめいめに豪華なハンバーガーが出来上がりました。ハンバーガーの工夫だけではなく、テープやハサミなど基本的な文具の使い方も学べたと思います。新聞紙と色テープあれば家で簡単にできるのでビーバー隊以外でも作ってみてはいかがでしょうか？侮れないリアルなハンバーガーが出来ますよ！



6月16日 大池小池ミニハイク

ビーバー隊隊長 草嶋隆行

見学者も含めて3人で大池小池ミニハイクにいきました。大岡山から洗足池の水源を求めて歩きました。住宅街の中の小さな神社の中に湧き水があります。崖から滝になって小さな池に水が流れ込みます。白蛇の伝説があるらしく、スカウトと一緒に探してみましたがいませんでした。

それから大池と呼ばれている洗足池まで歩きます。神社にお参りしたあと、鯉に触ったりしながら池を半周して今度は小池に行きます。何気に高低差がある中みんな元気な歩きました。小池では水辺で生き物探しをしました。靴も脱いで真剣に探してみると草の陰に小さなエビを見つけ、ペットボトルに入れてお持ち帰りしました。どこまで大きくなるか楽しみです！伊勢エビになったらみんなで調理しましょう♪



カブ隊 6/8~9 1泊舎営@川崎市青少年の家

カブ隊 副長 秋山真一

梅雨が始まり、雨が心配された一泊舎営ですが、むしろ過ごしやすい天候となりました。土曜日は荷物の点検と翌週のCSラリーの準備の後に、ナイフでの鉛筆削りに挑戦しました。最初はおっかなびっくりナイフを使うスカウトたちでしたが、みんなきれいに削ることができました。夜は毎年恒例のナイト宝探し。懐中電灯を片手に夜の公園で、スカウトたちはリーダーが隠した宝を探しました。日曜日は部屋の片付け後に、光の路の創作ダンス、ペーパータワー、自分の歩幅を使っての50m計測、国旗クイズ、ロープ結び対決と企画が盛りだくさんです。ペーパータワーでは紙を使って高さを競いますが、各組のスカウトたちの工夫の違いが出て興味深かったです。2日間の様々なゲームの結果と生活面での評価を総合し、一泊舎営最優秀組賞は2組がとりました。復路は昨年雨で断念した大山街道を歩きます。距離は4.5kmとさほどではありませんが、一泊分の荷物をしょって歩きます。全員無事歩ききりました。

3組 DL 河津若来

暑い午後に出発となり、宿舎までは慣れない重いザックに挫けそうになるスカウトもいましたが、到着して活動が始まると、皆はりきってゲームを楽しんでいました。どのゲームも盛り上がりがありました。宝探しは難しく、私は1つも見つけられませんでした。くまスカウトは次々と見つけてきて、さすが！と感心しました。2日目の終わり頃には、集合時間を意識出来るようになり、帰り道もしっかり歩いて、素晴らしい一泊舎営でした。いつもより長い時間を一緒に過ごし、少し仲良くなれたかなと思います。夏季舎営も皆んなと行くのが楽しみです！

1組 しか

僕は学校から帰って少しだけ休んでから行ったのでけっこうつかれました。でも、1ばかりだったのがよかったです。さいご帰るとき歩きだったのでビックリしましたが、4km500mだったのでそんなに長なくてよかったです。

3組 うさぎ

はじめてのカブスカウトのいっぱくしゃえいはたのしかったです。とくにナイトたからさがしがおもしろかったです。らいねんもたのしみです。



6/16 カブラリー

カブ隊 副長 本間千香

今年のカブラリーも 梅雨時期の中休み？と云うぐらいの夏日でした。今年も実行委員でもあり 半年前からの打ち合わせから始まり 周りの他団の方々について行くのが精一杯。やっと 他団のリーダーの方たちのお顔が覚えられた？かなと云う感じです。CPラリーとは 1年に一回 世田谷区の19団のカブ隊が集まり 他団とチームを組んでゲームをする活動です。今年もテーマは新元号の令和になったということで 古墳時代から平成までの6つの時代をゲームを通じて知り 他団の仲間と絆を深めてほしい思いで実行委員が企画しました。各CPから その時代のコスプレをしたリーダーたちが 開会式から 準備をして下さり とても 盛り上がったと思います。スカウトたちはどのCPが楽しかったのか ゆっくりと聞いていきたい と思いますが 平成時代担当だった5団のリーダーの方たちにはとても説明不足でスタート時に迷惑をお掛けしてしまいました。他団との交流がリーダーである私も 不足だったとして反省しております。今年も5団は 女子のいる団と チームになり やはり女子スカウトに厳しく指摘を受けたりしたと報告も受けています。彼らも男子だけの5団の意味を少しはわかってもらったのかな？なんて 思いますがいろいろな 体験ができる ボーイスカウトだ と思っております。今年も5団カブ隊の年間テーマである「歩くぞ！V」なのですが この日は30度の気温 砧公園から二子玉川駅まで 歩く予定でしたが23人+見学者(竹内くん)を連れては少しキツイとリーダーで 判断し 用賀駅まで歩き 二子玉川駅まで戻りました。その判断も、良かったのか スカウトたちは程よく疲れ 活動も楽しかったと思う気持ちで解散出来たような気がします。今年も上進 入隊スカウトが多いので少しずつ体力がつけばと思っています。また 詳しくはHPを見ていただくと様子がわかると思いますのでご覧ください。

1組 しか

楽しかったことはゲームで、大変だったことはかぶとを折ることでした。

2組 しか

他団の友達と協力して、戦国、昭和の2つでポイントを取れたことが嬉しかった。

4組 くま

今日、世田谷第10団2組の人と一緒に活動しました。昭和のゲームでは、10点をとることができてうれしかったです。開会式のとき、たくさんの方がいてびっくりしました。るか心配でした。古代植物園に着いて、たくさん植物を観ました。初めて観るものもあって、とても興味がわきました。そして、それが紙や染料として使われていたことを知って、普段使っている物に使われていたことに驚きました。いつの間にか心配も無くなっていました。振り返って、本当に暑くて、足も痛くなったけど、皆と一緒に頑張れたことがよかったです。



ボーイ隊 6月1～2日 訓練キャンプ @清津峡キャンプ場

BS隊 オットセイ班
清津峡キャンプでは、今までのキャンプで一番大変でした。班の人が三人しかいなかったからです。しかし、みんなで協力して美味しいご飯を焦げなく炊けたり、また立ちかまどをうまく作れるなど、色々なことが成功しました。そして縄の結び方なども学びました。今回のことを忘れず、夏のキャンプもうまく生活したいと思います。

BS隊 カモメ班
今回のキャンプで1番心に残ったことは、荷物をキャンプ場から、デコボコしてる道と、傾斜の急なコンクリートの道を上った先の道路まで運んだことで、片道20分ぐらいかかる。それを3往復ぐらいした。作業服が汗でビシャビシャになったが、いいトレーニングになったと思う。ただ、とても疲れたので、来年は、別の場所がいい。

BS隊 カモメ班
1泊2日のキャンプで、荷物をキャンプ場に運ぶのが大変でしたが、みんなで食事を作ったりテントを立てたりして楽しかったです。キャンプで多くのことを学び、その内容は立ちかまどの角結びやテントの立て方などを学びました。とても楽しかったキャンプでした。

BS隊 トナカイ班
今回のキャンプで初めて班長代理を務めた。班長は班員の動きを見ながら臨機応変に行動しなくてはならない。しかし、自分の行動に精一杯になってしまい、なかなか班員への指示出しができなかった。また食事のレシピ作成も担当した。家でじっくりと考え、また、試しに作るなどして準備したので、とてもうまくいった。改めて準備の大切さを実感した。
しかし、最も大変だったのは撤収のときだ。なんと、キャンプ場が荷物を入れる車がとまっている道の300mほど下にあるのである。それもとても急な坂で、荷物を持って上るのはとても大変だった。とくに、本テントを背負って上ったため、途中で押しつぶされるかと思ったほどだ。などなど色々出来事はあったが、やはり班長代理を務めることができたのはとてもいい経験になった。今後の活動に生かしていきたい。

BS隊 トナカイ班
清津峡キャンプで一番印象に残った立ちかまどを皆で協力して1時間ぐらいかけて作りました。私は隊長にロープの結び方を教えてもらい自分でやりました。夜のキャンプファイヤーでスタンツが楽しかったです。帰りに二人でテントを持ち急な登りを運んだのでつらかった。とても疲れたので家に帰る電車の中で寝過ぎそうになりました。



BS隊 トナカイ班
僕がこのキャンプで一番大変だったのは、備品を運んだ事です。中には一番重い本テントもあり、二人で運ばないと持ちきれないほどの重さでした。そして、一番楽しかったのは小営火です。小営火ではスタンツやキャンプの歌など色々なことをやりました。
一番勉強になったのは、テントの建て方です。ペグはどの方向に打つかや、テントのたたみ方などたくさんの事が学びました。
大変だったけれど、頑張ってたて良かったです。



6月23日 隊ハイキング 「オリンピック マラソンコースを歩く」

BS隊 オットセイ班
今回は、新国立競技場から、浅草まで歩きました。途中で足が痛くなったりしたけど、無事浅草まで行きました。しかし、お昼が食べ終わってから浅草までは、スカウトペースで、ペースが速くてとても辛かったです。スカウトペースはきつかったけど、無事ゴールまでつけて良かったです。

BS隊 カモメ班
今日の活動は久しぶりで班のみんなに会えたり、リーダーに会えたりと楽しかったです。また体験の子も来てくれて、ボーイスカウトの楽しいところ、きちんとするところをしっかりと教えられたと思います。
1ヶ月足らずで僕は世界ジャンボリーに行くので普段の活動でスキルを上げていきたいです。

BS隊 カモメ班
東京オリンピックのマラソンコースを歩いてみて、オリンピックのマラソン選手はすごく長い距離を走ってるんだなと思いました。

BS隊 トナカイ班
今回の活動は2020年オリンピックのマラソンコースを歩きましたが、テストなどにより、トナカイ班の参加人数は自分一人でした。そして、体験の子が入ってきました。最初は恥ずかしがっており、スカウトに興味をあまり持っていませんでした。しかし電車や歩いていると部活の話からどんどん話題は広がり、スカウトに興味を持っていただいたと思いました。僕は歩くのが好きではありません。今回の活動はまるでカブスカウトだと思って、行こうか迷いました。しかし、たまにはこのような活動も良いかなと思って行きました。活動内容は歩くのがほとんどでしたが、歩いてマラソン選手はとてもすごいなと思いました。



ローバー隊

「教育という観点から見るスカウト活動の意義」

ローバー隊 磯田悠生

僕の小さいころは、ちょっとした異端であった。“流行り”とか“みんながやること”が嫌いで、自分の好きなものを尊重して心の赴くままに毎日を過ごしていた。だからお遊戯会にも参加しなかったし、仮面ライダー云々にもあまり興味を示さなかった。それに人の話を聞くのが嫌いであった。そんな世間を小ばかにする磯田少年であったが、成長してもその少し曲がった根性は残った。そのせいか、はたまたそのおかげと言うべきか、今でも、意識せずとも自身の独創性を優先してしまうところがある。オリジナルであることに對する、無意識の（しかし強い）肯定が働く節がある。

去年の9月、僕は全長6m近くにもなる三脚信号塔をひよどり山に建築した。もちろん工具は使用せず、木材とロープだけを使って。この企画・計画・実行においては、山田VS隊長や河田BS副長をはじめとして、多くのリーダーや関係者の方々から多大なご協力をいただいた。それが無ければ、このプログラムは成し得なかったと思う。感謝します。信号塔の上からの景色を僕自身で見ることはなかったが、それでも僕はあの日のことを今でも鮮明に思い出せる。それにもし、あの日あの場にいた皆がなにかしら思い出をあのひよどり山に置いて行ってくれたとしたら、それは僕にとって益々の喜びである。

しかしながら、この一つについても後から振り返れば相当な異端、いやオリジナルであったと思う。なぜなら大型建築プログラムは、複数の他団と合同で行うことが通常であるし、建築する信号塔の形状も、四脚の四角いフォルムを選ぶのが一番やりやすいからだ。一般的な四脚の信号塔は丈夫で安定しており、またあらかじめ最終形を想定しやすいため倒壊によるけがのリスクや準備不足のリスクが少なく、好まれるのである。

対して今回は、（他団から数名参加者があったものの基本的には）一つの団が主体になって、しかも三脚信号塔を建てた。相当オリジナルなプログラムだったのだ。

だから、準備段階から困難が非常に多かった。

- 人は何人必要で、時間はどのくらいかかるか？
- 工程を何分割するのが効率的か？
- 材料（縄や木材）の種類と分量は？
- その他必要な工具はあるか？
- 安全をどうやって確保するか？
- 全体のスケールはどのくらいになるのか？
- 協力してくれた皆は退屈しないか？

私は計画当初、このすべてを“ゼロ”から考える必要があった。なぜならこの企画は、全くのオリジナルであり、全くの未知だったからである。

人がすでに切り開いている道を自分用にコーデする、もしくは選んで進んでいくのは簡単である。それに対して、一つのををゼロからつくりあげるのは、常に

想像力やら細かなシミュレーションやらを要求されるため、何かと気疲れする。何か要素を付け足そうものなら、それに関連してあちこちに変更が生じ、5倍10倍と仕事が増えていく。想定外の見落としが一つでもあれば、プログラムは実現せず、一瞬のうちにただの夢妄想に成り下がりがかねない。

多少大げさな印象を受ける方もおられるだろうが、これがオリジナルを作る上での辛さである。だがそれを味わうのは、今回の大型建築プログラムが初めてでは無い。これまでに部活の慰労会や普段のスカウト活動などでたくさん場数を踏み、そのたびにオリジナルを発揮しようと奮闘し、そうやって僕は何度もこの辛さを経験してきたのだ。自分で自分の首を絞めるバカげた行為だと思うだろうか？

そう言われてしまえば、それで話は終わってしまう。しかし断言しよう。オリジナルをやり遂げた時の達成感はなにものにも変えがたい。辛さの代価としてはお釣りがくるほどの満足が得られるのだ。

あるいは、マイナスだと思っていた自分の個性が、新しい“なにか”の創造というプラスに反転したと捉えることもできる。

だから私は、自身を苦しめ続けながらも、オリジナルへの執着という片意地を張り続けていられるのだ。

オリジナルを作ろうと沢山の場数を踏んできた。そのなかで、「ゼロから何かを作りたいなら、最低これだけは必要」と思う能力を見出すことができた。それは、以下の三つである。

- 広い視野を持って、気づく力
- 土壇場での、対応力
- 協力者を得て、指示する力

言われてみれば当たり前な三項目かもしれない。ただ私の経験上、たいていの場合、どこかのタイミングでこのうちのどれかが知らぬ間に抜け落ちてしまう。計画が複雑で難しければ尚更だ。だから、基本的な三項目ではあるが、私なりの説明を加えさせていたきたい。

まずは一つ目。大きなイベントを進めようとする、複数のタスク、それもジャンルの異なるタスクを同時並行でこなす必要が出てくる。勉強のように一つのことに集中して取り組めば成果が出るようなタイプのものではない。どれだけ細かく分業しても、イベントの企画・計画・実行には常にこのマルチタスクが付きまとう。

だから、企画・計画・実行の各段階で、目の前のことにフォーカスしすぎず、常に視野を広く持って想像力を働かせながらシミュレーションを行うことが大事である。そうすることで、他の様々な要素との関連性に気付けたり、重要なヒントを周りから見つけ出せたりする。それが成功のカギである。

これが広い視野を持って、気づく力、である。

二つ目。いくら準備をしても、現場では想定外の事態が発生する。その場合、その場で計画を変更したり、

なんとか力技でその事態に対応したりする必要がある。会場の下見が事前に出来なかつたりすればなおさらだ。“そなえよつねに”はこの業界では幅を利かせている言葉であるが、現実問題下見が叶わない場合だってある。しかもこの言葉は、逆手に取れば「そなえた範囲でしか動きが取れない」ということを意味しかねない。

そんな弱いスカウトであってはマズいので、ベターな準備と共に土壇場での、対応力、も大事なのだ。

最後、三つ目は、一番の重要項目である。昔から“孤軍奮闘”が悪い事態を意味するように、人間は一人では限られた時間の中でできることに限界があるし、知恵も限られる。

また、仕事を一人でため込んでいると、次の仕事 came ときに、まるで玉突きのように元の仕事の一部が抜けてしまう。そうすると、予期せぬミスが自分一人に降りかかることにもなる。そうしていると、だんだんストレスが増えていき、悪循環が回転を始める。そんな時に、仕事を手伝ってくれる頼もしい協力者がいれば、知恵が増えて出来ることの範囲が広がる。その上、責任や自分の受け持つタスクが小さく分散される。するとミスも減り余裕が出てきて、今まで気付けなかった可能性を発見することもある。

だから、多少面倒でも仕事はある程度時間をかけて協力者に説明し、きちんと分業を進めるべきなのだ。私も一時期、いちいち他人に仕事内容を説明したり、承認を得るために話し合ったりするのに時間が取られるくらいなら、自分一人でこなした方が良いと思っていた。しかしそれは、今から振り返れば非効率だったのだ。

それにチームで仕事をすることの楽しさもある。冒頭に書いた通り、大型建築プログラムは沢山の方々の協力によって成立した。それを思うと、なんでも自分一人でこなした方が良いという考えは愚かであった。これが、協力者を得て、指示する力、である。

前置きが長かったが、ここからが本題である。上に述べた三つの力は、なにもボーイスカウトに限って役立つわけではない。むしろスカウト活動を通して三つの力を高め、それを学校や社会での行動に役立てるよう考えるのが正しい。そもそもボーイスカウトは青少年の健全育成のため

にある組織であるから、スカウト自身がその中で成長するような場でなければならない。日曜日に集まって、単に原始的なことをしている集団ではないのだ。

私自身に関しては、これまでの様々な経験や苦労の中で、オリジナルに対する過度な肯定を、自身のやりたいことを実現するためのノウハウ確立という形で昇華させることが出来た。このような、「経験」→「経験によって得られた能力の抽象化」→「より広い一般対象に対しても役立つノウハウの習得」という流れは、ローバーになった私が今まさに求めている人間教育のイメージでもある。

教育とは、学校でのみ行われるものではなく、決まった大人から施されるものでもない。個人が自発的に課題を設定してそれに取り組み、それを通して実際に肌で感じたことこそが、真の学びになる。そしてそのような体験を共有する対等な者同士が、意見を交換してさらに高めあう。そうあるべきだと思う。

その根拠は、福沢諭吉の教育理念の中にある。福沢は著書『学問ノススメ』の中で、「飯を炊き、ふろを沸かすことも学問である」（要約）と述べている。ここでいう学問とは、いわゆる学校での勉強に限らない、将来社会の先導者になるべき人間たちが身に付けておくべき教養を学ぶ行為を指している。ここに教育というものの本意、すなわち普段から“実践躬行”を心掛け、その実践の中で自らが感じたままに教養を蓄えていく姿が示されていると思う。常日頃から我々は、学びをこのようにして行っていくべきなのだ。

さらに福沢は、“半学半教”という言葉で表される学問への姿勢も説いている。すなわち、前述したような自発的学問動機を持った者同士が、互いを他山の石としながら半分学び、半分教える。そのような過程を経て、共にさらなる高みを目指す、という姿勢である。そこに形式上の師弟関係なるものは存在すべきではない。

ボーイスカウト活動はまさに、これを実践できる場ではないだろうか。学校でも家庭でもない第三の教育機関としてのボーイスカウトには、スカウトも指導者も同じ土俵で学びあえる環境が、そして何より、自発的に活動できる環境が、それなりに用意されている。この文章を読んで、ボーイスカウト活動の意義を新たに発見するスカウトが出てくれることを願う。

会議報告

育成会役員会 6月16日(日)9:30～11:45 尾山台ロイヤルホスト

- 自己紹介
- 育成会1年間の活動予定
- 活動費集金について
- スカウト活動のPR方法について

団委員会・団会議 6月22日(土)15:00～ 奥沢地区会館第1会議室

- ★ 各隊報告
- ★ そなえよつねに共済(傷害保険)、賠償責任保険について
- ★ 日連 スカウト入団キャンペーン(2019/4～8月)



8月17日(土) 団委員会・団会議 20:00～ 奥沢地区会館第1会議室

7月は会議はありません

澤育成会長の「慰労会」開かれる

6月22日、40年の長きにわたり5団のためにご尽力されて来られた澤育成会長の慰労会が、九品仏「庄屋」にて催されました。団委員、育成会役員、リーダー、そしてローバースカウト等、30数名が集まり、5団の昔話?に耳を傾け、おおいに盛り上がりました。澤さん、本当に長い間お疲れ様でした!

